

当院におけるプリセプターシッププログラムの評価（第2報）

卒後教育プロジェクト：○溝田哲子・森田奈美江・山根理恵子

はじめに

当院では平成5年度よりプリセプターシップを導入している。その目的としては、新人看護師がリアリティショックに陥ることなく、受持ち看護師として患者を全人的に捉えた看護が実践できるように支援するというものであった。その後プログラムの評価を行い、クリニカル・ラダーの導入とともに平成15年度よりプリセプターの選抜基準が設けられた。プリセプターシップにおけるプリセプターの役割、プリセプティに関わる上で必要な知識、技術、態度を修得できるように年間3回の研修会を実施している。また、各病棟の代表のプリセプターに参加してもらい、効果的なプリセプターシップが実施できるように意見交換、相互支援の場としてのプリセプター会議を年間6回実施している。

プリセプターシップの目的は上記に加えて、プリセプターが新人看護師を指導することで自己成長を促すことを目指している。プリセプターはその役割を達成していくことで、看護専門職としての成長過程を踏んでいくと考える。

このような目的を達成するためには、プリセプターとプリセプティとの関係のみではなくプログラムとして適切な評価を行い支援体制の整備が必要と考える。その中でも看護管理者の果たす役割は大きい。そこで当院におけるプリセプターシッププログラムの現状を分析し今後の課題を明確にすることを目的として研究に取り組んだ。

I. 研究目的

- 1.プリセプターシッププログラムにおける看護管理者の役割の現状分析を行う。
- 2.プリセプティの適応状況の変化を明らかにする。
- 3.プリセプターの役割と支援体制の状況および変化を明らかにする。
- 4.上記の分析を通して当院におけるプリセプターシッププログラムの今後の課題を明確にする。

なお研究目的1については第1報として報告した。

II. 研究方法

1.研究期間：平成16年4月～12月

2.対象：プリセプター・プリセプティ36名および新人が配置されている部署の看護管理者10名

3.データ収集・分析方法

(1)プリセプティについて

平成16年5,7,9,12月の計4回、無記名で適応状況と相談している対象と内容、支援の状況についての自由記載を求めたアンケートを実施した。アンケートは師長会を通して配布し部署毎に回収した。結果を集計しT検定を行った。

(2)プリセプターに対して

平成16年5,9,12月の計3回、無記名で自己評価表と現状に関する自由記載を求めた。評価表は宮崎ら⁽¹⁾の「プリセプターの自己評価表を」を使用し、内容は「人間関係」「業務支援」「目標設定」「役割遂行」に関する31項目で構成されている。アンケートは師長会を通して配布し部署毎に回収した。結果を集計しT検定を行った。

(3)看護管理者に対して

質問法による面接を実施した。詳細は第1報を参照

4.倫理的配慮

アンケート・面接を実施する対象に対して、研究の趣旨とプライバシーを厳守することを文書で説明し、研究目的にデータを使用することの承諾を得た。

III. 結果・考察

1.プリセプティの適応状況の変化について（卒後1年目適応状況アンケート結果参照）

(1)アンケート結果：アンケートの回収は5月33名,7月36名,9月33名,12月34名であった。回答は「そうである」「まあそうである」「あまりそうでない」「そうでない」の4段階評価とし全体に対する比率の推移をみた。集計した得点を月別、項目別でT検定を行ったが有意差は認められなかった。質問は13項目あり、そのうちの研究目的に関連している7項

目(質問 1, 4, 6, 7, 10, 11, 13)に対して分析を行なった。

質問 1 病棟の雰囲気は受け入れやすいですか(図 1):5月, 7月では「あまりそうでない」が1割程度であったが9月以降は全員が「そうである」「まあそうである」と回答している。

質問 4 プリセプターに相談できますか(図 4):「あまりそうでない」が5月 17%, 7月 6%, 9月 3%, 12月 0%と推移している。「そうである」は5月 53%, 7月で 76%, 9月 67%, 12月 62%と回答している。

質問 6 わからないところを自ら質問するように心がけていますか(図 6):5月, 7月は「あまりそうでない」が3%であった。「そうである」は5月 47%, 7月 64%, 9月 45% 12月で 41%であった。

質問 7 自分の失敗に対して、適切なサポートを受けていると思いますか(図 7):「あまりそうでない」が5月 8%, 7月 3%, 9月以降が0%になっている。

質問 8 業務の計画を立てて、実施していますか(図 8):「あまりそうでない」は5月 8%, 7月 3%, 9月 6%であり、「そうである」は5月 19%, 7月 52%, 9月 36%, 12月 29%であった。

質問 10 学んだこと、経験したことを振り返り、次に活かしていますか(図 10):「あまりそうでない」が5月 28%, 7月 9%, 9月 6%, 12月 6%と減少した。「そうである」は5月 11%, 7月 15%, 9月 12%, 12月 21%であった。

質問 13 自分らしさは出ていますか(図 13):「そうでない」が5月 14%, 7月 3%, 9月 6%, 12月 3%と減少した。「そうである」は5月 0%, 7月 12%, 9月 6%, 12月 3%であった。

(2) 考察

図 1, 4 より、プリセプティは時間経過と共に適応していることが分かる。9月以降、「あまりそうでない」「そうでない」というマイナス回答が0になっていることから、プリセプティにとってプリセプターの関わりが有効に働き、リアリティショックの緩和に繋がっていると考えられる。適応状況についての自由記載には全員が主な相談相手はプリセプターであると答えていた。プリセプターはプリセプティにとって身近な相談相手となっており、効果的な介入の結果だといえる。また、質問 7 でほぼ全員がサポートを受けていると感じている。各質問項目を見ても、リアリティショックが起

やすく疲労が強い7月から9月は、サポート機能が働いているデータ推移となっていた。プリセプターを中心としてプリセプティを支援する教育的風土は徐々に高まってきていると予測でき看護管理者の面接結果と一致した。プリセプティとプリセプターの関係は良好でありプリセプティにとって、プリセプターシップは第一目標であるリアリティショックの予防と職場適応の促進に有効に働いていると評価できる。アンケートの全体推移から、9月以降よりマイナス回答が減少していることから半年間はプリセプターとのマンツーマンが好ましいと思われる。

今後の課題として、第二目標である専門職としてのキャリア意識の向上や実践者としての自立がある。学習課題を達成するために、プリセプターとの体験を通し、自立していくことが求められる。質問 6 ではほぼ全員がプラスの回答であるが、「そうである」の回答は減少している。出来ることが増えてきていると解釈するかはこの結果ではわからない。プリセプティの主体性、自立の変化を見ることはできなかった。集合教育の研修会アンケートでは、看護技術の苦手意識、不安があり、実践に関する研修内容の要望が多くあがっている。プリセプターシップのゴール設定、自立への支援をどのように組み立てていくかを検討していく時期に来ている。

2. プリセプターの役割と支援体制の状況および変化について (プリセプター自己評価結果参照)

(1) アンケート結果: アンケート回収数 34名(回収率:94.4%)集計した得点を月別、項目別でT検定を行ったが有意差は認められなかった。全般においてプリセプターナース自己評価では約80%において多少できた～よくできたと評価していた。(図 1~4 参照)カテゴリー別にみると[人間関係][業務][目標]においては後半になるにつれ極差ではあるが、全体評価(平均値:表 1)は上昇している。[プリセプター自身](図 4)については9月から12月にかけて下がってはいるが、5月と12月を比較すると上昇している。各カテゴリーの中で各月ともに全体評価(平均値:表 1)より低かった項目は共通しており、[人間関係](図 5)では「プリセプティが患者から受け入れられるように調整していますか」「プリセプティがリフレッシュ

できるように支援していますか」、【業務】(図 6)では「プリセプティが臨床と学校との差を受容できるように支援していますか」「自己学習に必要な参考資料などを紹介していますか」「看護マニュアル、業務手順を活用していますか」、【目標】(図 7)では「プリセプティがやりがい感をもてるように支援していますか」、【プリセプター自身】(図 8)では「支援したことについて評価が得られていますか」「プリセプター自身が看護関係の本を読んだり、紹介していますか」「支援したことについて、自分なりに評価していますか」の項目であった。

(2)考察

【人間関係】においてはプリセプティがプリセプターやスタッフといった職場の人的環境に適応できるように支援できているが、知識や技術面での指導に重点がおかれがちでプリセプター自身もゆとりがなく、患者との人間関係の調整やプリセプティ自身への支援については評価が低かったと考える。【業務】については4年過程の教育課程を修了したプリセプティが増えており教育背景が異なった新人への指導であることに困難を感じていると考える。プリセプター対象にプリセプター研修の機会を設けていることで指導計画への不安は多少軽減されるものの、個々の教育背景に応じた具体的な指導という点で配慮が必要となる。プリセプティは技術面に苦手意識・不安が強いので看護実践能力の育成に結びつく計画が要求される。また看護の質を統一するために看護マニュアルや業務手順を整備するとともに活用するよう指導する必要がある。【目標】についてはプリセプティの目標達成に意識がむき、できていない面をみてしまいがちになり、それらをプリセプターの責任と考える傾向にあるからと考える。【プリセプター自身】については各病棟にプリセプターシップのバックアップ体制は整えられておりスタッフからの協力は得られているとの結果が多く、プリセプターシップを意識した教育的環境は意識が高まってきていると思われる。しかし自己評価や他者からの評価が得られていないと感じていることが課題である。定期的な会などでプリセプティの目標達成や変化の視点からの評価は看護管理者からあるものの、プリセプター個人の目標・課題についての個人的評価を得てないと感じているこ

とがわかった。これらの自己評価はプリセプターの経験によっても差がみられるが、新人指導を通してプリセプターの自己成長を促す目的達成の視点から定期的に評価を行っていくことが必須である。課題を整理した上で、周りの支援のもとに実践していくことでやりがい感にも繋がり看護師としての資質の向上、キャリアアップにつながるのではないかと考える。また自由記載には看護管理者・スタッフからの支援協力が得られているという意見と、もっと支援してほしいという意見があった。教育的環境を整える上で看護管理者の影響は大きく、病棟全体の支援体制の確立やお互いのコミュニケーションを密に行うことをプリセプターが求めていることがわかった。

3.当院におけるプリセプターシッププログラムの今後の課題について

今回の調査を通して以下のことを課題として取り上げた。

- (1)看護師全体を対象に成人教育の視点からプリセプターシップについての研修会の企画
- (2)プリセプターの指導力向上を目指した委員会の企画・運営
- (3)プリセプター個人のキャリアアップを目指した看護管理者の具体的な指導・支援および教育委員会や卒後教育プロジェクトとの連携システムの構築
- (4)各部署のプリセプター会議などにおける指導場面の振り返りや体験の共有化
- (5)プリセプターシッププログラム評価のためのツールの選択と継続した計画

おわりに

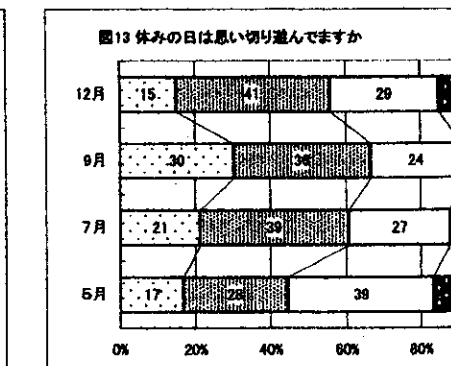
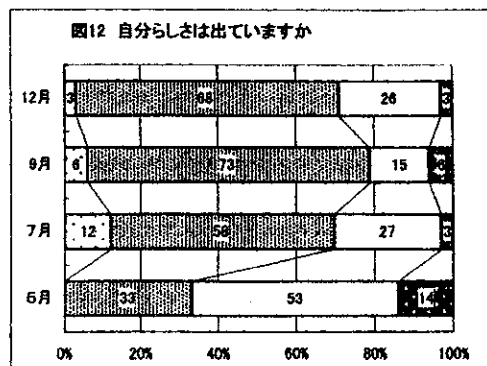
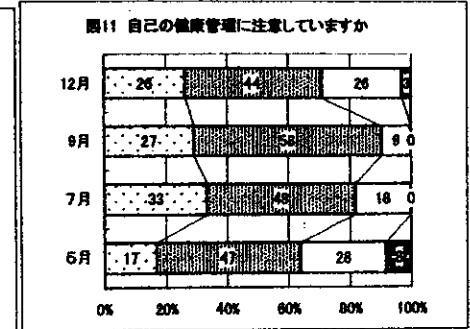
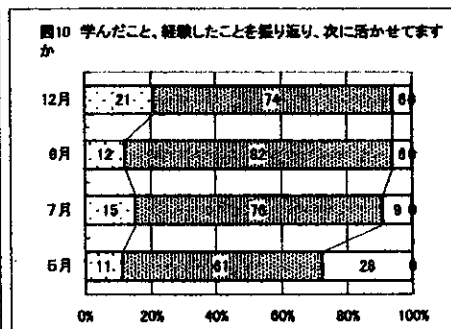
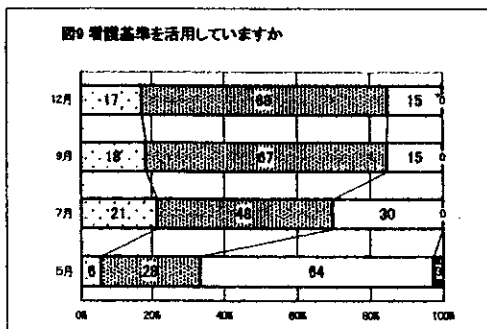
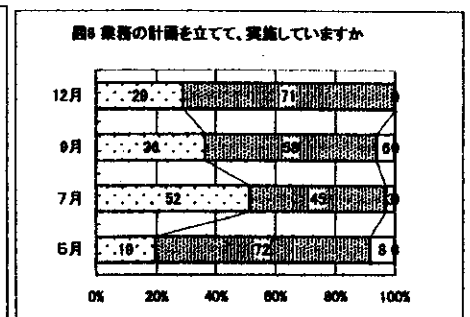
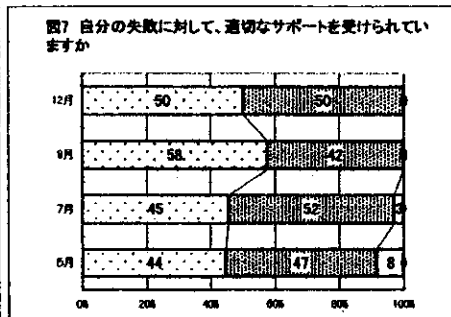
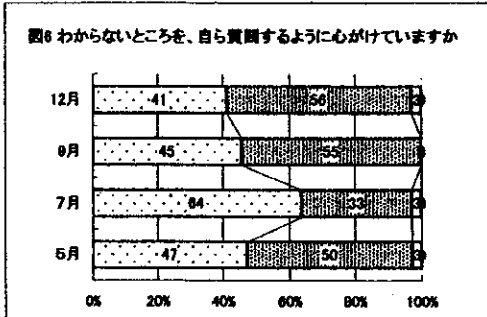
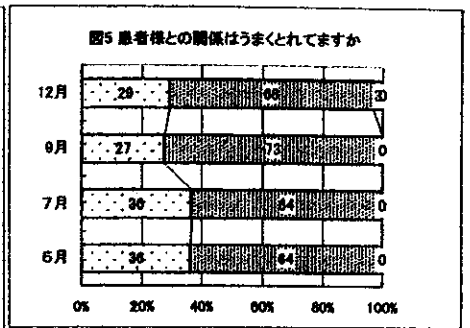
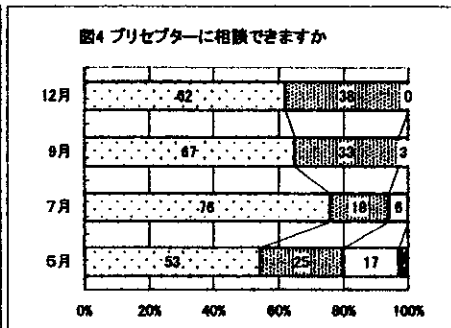
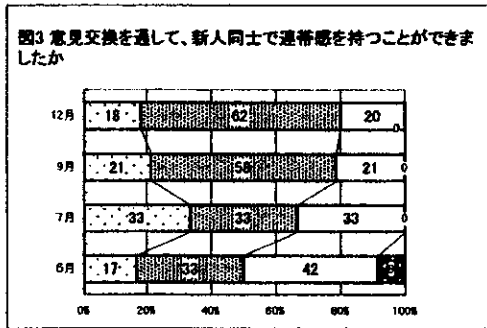
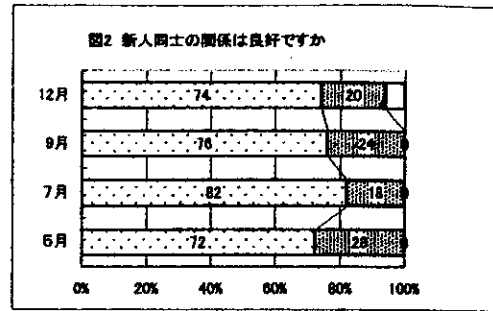
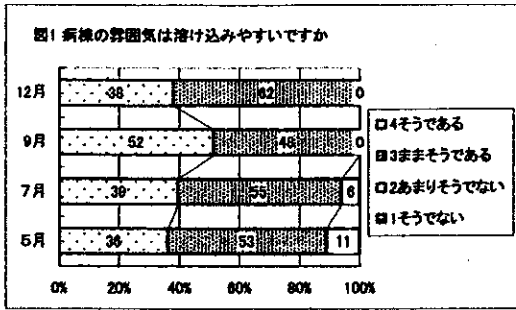
今回の調査結果は面接内容・技術やアンケート調査のツールの妥当性に限界があるものと考えられる。今後、教育委員会を中心として卒後教育プロジェクトと各部署が連携していき、効果的なプリセプターシッププログラムの構築に取り組んでいきたい。

引用文献

- (1)宮崎妙子他:プリセプター教育プログラムの実際 p57,日総研出版,1998

参考文献

- (1)永井則子:プリセプターシップの理解と実践,日本看護協会出版会,1998



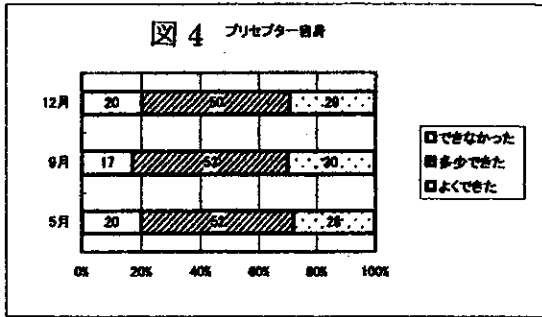
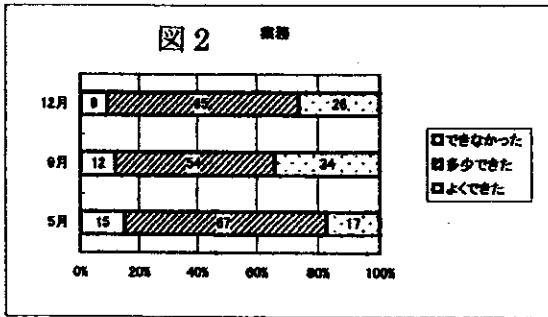
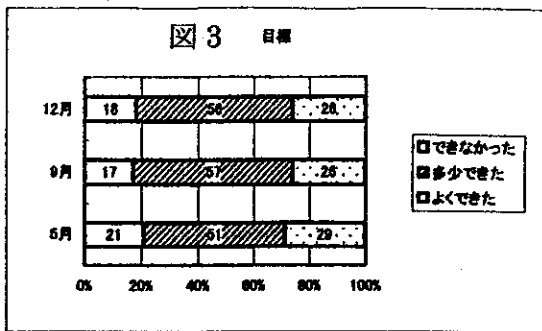
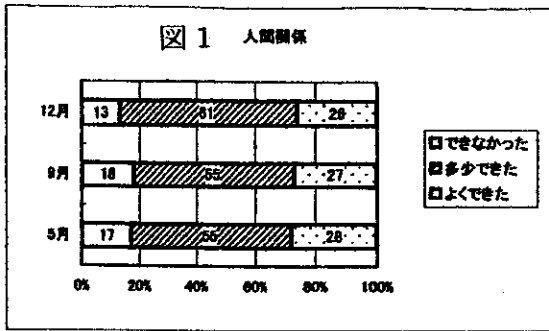
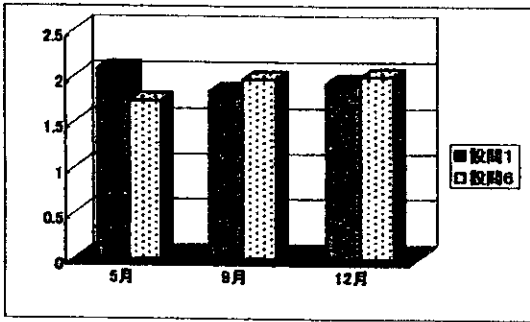


図5 人間関係

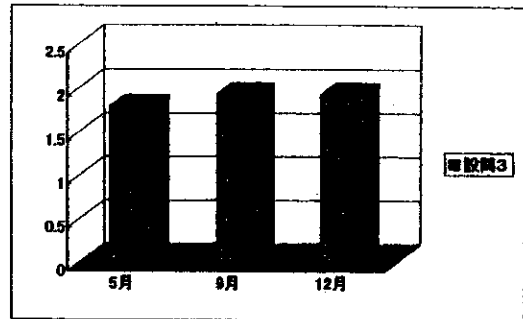
	5月	9月	12月
設問1	2,088	1,848	1,939
設問6	1,743	1,971	2



- 1 プリセプティが患者から受け入れられるように調整していますか
- 6 プリセプティがリフレッシュできるように支援していますか

図7 目標

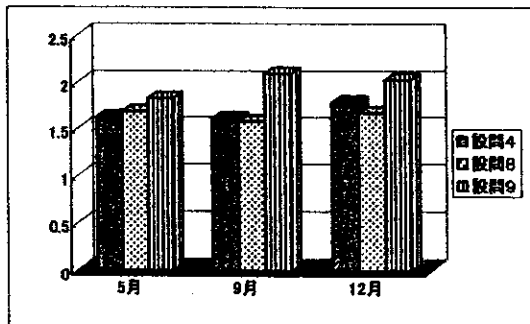
	5月	9月	12月
設問3	1,8	1,939	1,939



- 3 プリセプティがやりがい感をもてるように支援していますか

図6 業務

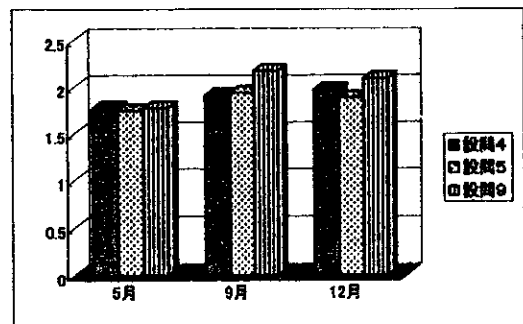
	5月	9月	12月
設問4	1,829	1,806	1,788
設問8	1,888	1,579	1,687
設問9	1,829	2,091	2,03



- 4 プリセプティが臨床と学校との差を受容できるように支援していますか
- 8 自己学習に必要な参考資料などを紹介していますか
- 9 看護マニュアル、業務手順を活用していますか

図8 プリセプター自身

	5月	9月	12月
設問4	1,771	1,912	1,971
設問5	1,743	1,941	1,882
設問9	1,771	2,176	2,068



- 4 支援したことについて評価が得られていますか
- 5 プリセプター自身が看護関係の本を読んだり、紹介していますか
- 9 支援したことについて、自分なりに評価していますか

表1

カテゴリー別全体評価(平均値)

	人間関係	業務	目標	プリセプター
5月	2,088	2,089	2,021	2,088
9月	2,133	2,101	2,091	2,238
12月	2,13	2,104	2,159	2.2